

*The
annual report*
St. Luke
2014 2014.1.1▶2014.12.31

医療法人**セント・ルカ**
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

目 次

巻頭言	1
一年を振り返って	
医局	3
心理専門相談室	4
看護部	5
研究室・培養室	7
受付	9
情報処理室	11
厨房	13
診療統計	
開院から2014年までの成績	
当院の患者数・妊娠の内訳・出産結果	16
初診後妊娠までの期間	18
不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断	18
腹腔鏡検査後妊娠までの期間	18
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率	19
ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠	19
35歳未満・体外受精1回目の妊娠率	19
妊娠数	20
2014年一年間の成績	
外来患者数・初診患者数	22
不妊治療費助成金申請内訳	23
妊娠の内訳・出産結果・異常児の詳細	24
手術・入院数	26
ART(生殖補助医療)による妊娠	27
ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況	27
セント・ルカ産婦人科一年のあゆみ	30
行事一覧	31
著書(共著)一覧・総説一覧	39
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	40
スタッフ配置	44
病院概要	45

巻 頭 言

宇津宮 隆史

開院して23年が経過し、2015年5月末現在で妊娠数7,516件となった。これは当院で無精子症、閉経などでまったく希望が無いとされた人、および通院しなくなった人を除いて妊娠率を計算すると、95%以上の人が妊娠していることになる。よって、「絶対に無理ですよ」と言われない限り、通院して治療を続ければ95%以上が妊娠するといえる。この数字を患者さんに各教室などで毎回示している。

さて、明るい面もさることながら、重く気にかかることといえば、やはり「妊娠困難例」であろう。それに対して、日本産科婦人科学会が特別臨床研究として着床前スクリーニング (PGS) を開始することが決定された。良好胚を移植しても妊娠しない、また妊娠しても流産するなどは通常経験することであるが、当院のデータでは、流産の80%以上が胚の染色体の数的異常であることが判明している。よって PGS が行われれば着床率はともかく、流産率が下降するであろうことは容易に想像がつく。しかも最近では、遺伝子検査もアレイ CGH を用いて全染色体が解析できるようになった。さらに次世代シーケンサーまで投入すれば、胚盤胞の TE 細胞10個ほどで子どもの性格から将来の病気、知能指数など、何でも前もって検索することが可能になる時代がすぐそこに来ているといえよう。すぐ近い将来、PGSにおいて正常と異常の線引きをどこに置くかという難しい問題に遭遇すると思われる。

「倫理」は世の流れによって変動する面もあり、またその人の信念、哲学によるところもある。正解は無いといってよい。それぞれが常日頃から、その時のために考えておかねばならないことであろう。

さて、生殖補助医療においては、さまざまな方法、器具、試薬、設備、そして人的能力などの総和として、その成功率が変化することは論を待たないであろう。その中で、培養液について、平成18年であるからもう10年になるが、当時の日本哺乳動物卵子学会 (現日本卵子学会) 理事長 井上正人先生の「そろそろ日本人に合った培養液を考えたかどうか」の一言に対して、わたしは「日本ならできます」と即座に賛成し、培地開発委員会が発足した。まず、日本人の卵管内液を採取・分析し、それを基本に培養液を作成するプロジェクトが始まった。いくつものハードルをかいくぐり、計画は順調に進んでいる。これは完全に日本人の卵管内液の分析を基に作成しているのである。現在広く使用されている培養液はすべて外国からのものであり、また、基本は動物実験による組成を基にしているという。よって今回の日本卵子学会の培養液は世界的にも画期的な培養液といえよう。早急な完成が待たれる。

日本の特殊な環境として、生殖医療に対しての法的な規制が無いことは世界的に見ても珍しいことである。そのため、法的には何をしてもよい状態であるが、日本産科婦人科学会の各種ガイドライン、会告が立派に機能しており、日本の生殖医療は整然と施行されている。しかし反面、生まれてくる児の法的保護に関しては、不十分であるといわざるを得ない。現在の法では児の保護を基本としているというが、ここで強力な反対意見が出れば、その基礎はおぼつかない。前例が無いからである。よって今、生殖医療に関して児の権利、保護を前向きにとらえた法的整備が求められていると思う。積極的に児を守る環境を整えなければならない。

この10年間、非配偶者間人工授精で生まれた人の自助グループ (DOG の会) の活動でそれらのことはかな

り広く知られるようになってきた。彼らの本当に貴重な、また当事者でなければわからない重い意見は、非配偶者間生殖医療を考えるに当たって、まず欠かすことのできない、無視することなどあってはならない重要な条件であると考え。そういった重要な点の一つに出自を知る権利がある。これさえ保障されればそのほかはすべてうまくいくと思う。よって現在審議がなされている法制化についても注視していかなければならないし、意見を述べる機会があれば積極的に参加しなければならない。

私が理事長を務めている児童養護施設 別府平和園は、ますます重要性が増してくるよう思えるこのごろである。児童福祉制度が里親制度の方向にシフトしていくことは明らかであるが、その結果、施設にはさらに重要な責務が要求されてくると思われる。それに当たっては、職員のレベルアップが欠かせないであろう。設備についてもその事態に十分余裕を持って応じられる施設を考えねばならない。一時の財政的問題も貞閑公認会計士事務所の指導のおかげで先が見えてきた。また、今後の近い将来の計画に当たっては、今年度の理事会には、新たに石川伊知郎理事および佐藤辰夫監事が参加して下さり、お二人の先生方のおかげで順調に手続きが進むようになった。このようにさまざまな解決すべき点を抱えているときに立ち返らねばならないのは、やはり別府平和園の設立からのキリスト教「理念」であろう。その基本を忘れないようにしなければならない。

この1年の皆様のご援助を感謝し、また、今後も変わりなくご支援をよろしくお願い致します。

河邊 史子

2015年の年が明けて、3ヵ月が駆け足で過ぎて行ってしまった。「この4月でセント・ルカでの勤務が10年目に入る」と同期である師長に聞いて、そんなにも時が経ってしまったことに少し驚いている。

去年の「一年を振り返って」で、私の医師としての折り返しを過ぎたと書いた。しかし、折返し一年目は仕事と家庭のバランスをうまくとれず、試行錯誤で終わってしまったように思う。大きなことはなかったような2014年度であるが、春の九州・沖縄生殖医学会の発表は、3年目でだいぶ慣れてきたが、大分県の評議員の末席に任命されて背筋が伸びる思いがした。5月のセント・ルカ主催の性教育セミナーやがん・生殖医療研究会、そして9月には、おおいた乳がん生殖医療ネットワークの立ち上げなど、新しく始まったこともあった。病院としては、院長の学会や理事会、PGSに関する小委員会などの出張も一段と増え、毎週のように診療予定の変更があった。

自分の管理能力の問題だが、2014年度は長男が中学校に入学、二男が小学6年生と子どもたちの生活にも変化があり、スケジュールを立て直さねばならないことが増えた。日によっては、夜まで分刻みのスケジュールで走り回る日もあって、仕事の時も、プライベートでも、心に余裕がないまま時間だけが過ぎて行ったように感じる。次のスケジュールのことばかり考えていて、何度か子どもに「おれの話聞いてない」と言われてしまった。もしかしたら患者さんの中にもそう感じていた方がいらっしやったかもしれないと思うと申し訳ない気持ちになる。今後は、仕事、子育てに集中力を切らさず頑張ることができるよう、自分の能力のキャパシティを超えないスケジュールを立てていきたいと思っている。

楽しいこともあった。4月の沖縄への職員旅行では、約15年ぶりにスキューバダイビングを楽しませてもらった。船酔いはつらかったけれど、久しぶりに沖縄の海の景色に夢中になった。7月には、日本福音ルーテル大分教会で開かれた積志リコーダーカルテットの皆さんによる折りのコンサートで、わがセント・ルカ産婦人科リコーダー部は、積志の皆さんとの合同演奏を果たした。リコーダー部のメンバーは、仕事の後、大分のリコーダー奏者の皆さんと、学生時代の部活のように一生懸命練習し、本番を迎えた。時間のやりくりが大変だったが、とても充実した時間であった。

振り返ってみると、セント・ルカだからこそ、仕事は忙しいけれど、遊びの時間も充実するのかもしれない。今年こそ、もう少し心の余裕をもって日々を過ごせるように頑張っていきたい。忙しさを楽しめる体力をつけるために、院長を見習って「すきま時間にジョギング」…はまだ無理なので、筋トレくらいから始めなくてはと思っている。

稗田 真由美

2014年を思い返しながらい、月日流れるのが年々早くなっていることを実感している。この一年で、自分はどのように変わったのだろうか、この寄稿を機に自分のありようを振り返ってみたい。

2014年は入職2年が経過した。1年目では、今までとは全く違う臨床領域へのご縁を頂き、このように高度な医療技術を提供している病院で、今までの自分の臨床への考えやスタイルがどこにフィットし、どのくらい貢献することができるのか、また、患者さんのニーズを把握し、どのようなスタンスでお応えしたらいいのか模索の時期であったかと思う。

学会や勉強会に参加する機会や、院長、河邊先生、また他スタッフの温かいご配慮を継続的に頂きながら、自分が当院の中で、心理に求められているもの、スタッフとの連携、不妊治療患者さんの相談の“勘所”が少しずつ見え始めた一年であったのではないかと思う。

きっかけとして大きかったのは、初診の患者さんにお会いする機会が増えたことである。大分県内で不妊治療専門の病院は当院しかないため、最初から当院の門をくぐるには勇気がなく遠回りをしてしまったと後悔している方、自然にできると思い結婚から何年も経過している方、電撃的に結婚し赤ちゃんのことなど考えたこともなかったと話す方、仕事が忙しかった、持病を抱えているなど、お話を伺うと当院を受診するまでの背景や置かれている環境に共感することが多い。また、ご夫婦で来院された時には、夫婦の治療に対する温度差や日常的な夫婦関係の葛藤などを垣間見ることがあり、不妊治療のスタート時の気持ちは皆、様々であると理解ができた。

昨今、天災、事故、病気など、その人にとって人生観を大きく揺るがすような出来事があった時、その事実を受け止め、どのように乗り越え成長していくかという、PTG (Post Traumatic Growth) という言葉を臨床心理学はもちろん、メディアでも耳にすることが増えた。大震災のように規模は大きくなくても、個人や夫婦のライフイベントから考えると、患者さん達は、強く挙児希望があるにも関わらず、不妊症という診断名の下、もう子どもができないかもしれないと途方に暮れ、不安を常に抱えながら病院へ通っている。そのような状況の中で、その葛藤や困難を女性として、夫婦でどう乗り越えていくのか。初診時と比較すると、夫婦の親密さや成長感、視野の広がり、また子どもを授かる、授からないに関わらず、家族としての将来設計が具体化してきたりなど、考え方の変化が感じられることがある。よって、背景にあるものを最初に理解しておくことは、患者さんの治療の流れを把握したり、困りが出てきた時に、頑張ってきたことをねぎらい、また気持ちを振り返りながら関わるので、自分にとって大切な時間となっている。

2015年は3年目を迎えるが、自分のスタンスとしては変わらず、目の前の人の気持ちがほぐれ、安心して帰っていただくこと。欲を言えば、少し前へ進めるようなお土産(アイデア)をお渡しできれば良いと思っている。まだ発展途上であるため、これからも院長、河邊先生、他スタッフとのコミュニケーションや情報収集を大切に、常に勉強をさせて頂きながら、患者さんと共に夢に向かって成長していきたいと思う所存でございます。

後藤 裕子

暖かい春の日差しの中、桜の花もほころび始めると気分も晴れやかになりますが、それと同時に「新しい1年が始まるんだ」という思いも湧き、身の引き締まる思いがします。

大分駅南口（上野の森口）に新築移転をして、今年の7月で丸4年となります。その間、大分駅そしてその周辺は土地開発が進み、目覚ましく進歩してきました。2015年の4月には駅ビルが完成します。そんな中、2014年はどんな1年だったのでしょうか？

看護部としては、2014年10月に新たな取り組みとして「卵管鏡手術」が始まりました。この卵管鏡手術では、体外受精を考えなければならない人にとって、体外受精を受ける前に行える手法の為、患者さんに好評です。

この手術が始まったばかりの頃に受けた患者さんの1人が、その後タイミング法で妊娠に至り、無事に卒業し、先日手紙が届きました。その中には「治療をした病院としては2件目ですが、転院して良かったです。ステップアップ方式での治療は大切だと思います。体外受精をすれば勝負が早いと思いがちですが、そんなことはないと思います。転院して半年以内に妊娠できたので、方針が合っていたのだと思います。」と書いてあり、このように患者さんからの声を聞くと、新しい方法を取り入れて良かったという気持ちと、卵管鏡手術は生殖補助医療にとって必要不可欠な手法になると感じました。

スタッフに関しては、昨年培養室から更に1人大学院へと進み、看護部からは今年当院初の日本看護協会の不妊症看護認定看護師の道へ進むスタッフがいます。大分県で生殖補助医療を行っている施設が少ないことから、当院で認定看護師が誕生することはスタッフ全員の願いでもありました。来年はこの試験に合格し、不妊症看護認定看護師として新たなスタートを切ってもらいたいと思います。

また忘れてはならないのが、例年行っている「大分性教育セミナー」と「大分がん・生殖医療研究会」の取り組みです。卵子が老化するという事を知らない人は未だ多く、「もっと早く知っていれば」という声を聞くたびに、やはり早いうちから啓蒙する必要性を感じています。がん・生殖医療に関しては、2001年、高校2年生の時に悪性リンパ腫にかかり、抗ガン剤の投与が必要だった女性が抗ガン剤の投与で卵子が作られなくなる可能性があるため、治療前に卵子を凍結し、2014年8月、30歳の時に融解した卵子を使って出産した事例が報道されました。当院でも同じように白血病の未婚女性患者さんの未受精卵の凍結を行っています。一般の不妊治療患者さんと共に、このような方々にも赤ちゃんが授かる事を願い、今後も継続して取り組み、援助して行きたいと思っています。

さて、看護部の1年を振り返ってみると、勤続年数が長いスタッフが増えてきました。しかしこの看護部に今現在足りない事は何か。素直な心だと思います。自分で感じ、考えて行動すること。そして自分に足りない事を受け入れて克服する姿勢が大切だと思っています。その事を一人ひとりが認識し、生殖医療に携わるスタッフとして恥ずかしくない1年を送りたいと思います。

関 こそえ

桜の開花と共に、遠くの山々の裾野が山桜で薄ピンクに染まり始める頃、ルカの1年が始まります。

1年を振り返ってみますと、2013年に卵管鏡手術を院長に同行して見学に行かせて頂き、2014年10月からは当院でも腹腔鏡手術と一緒に卵管鏡手術も行えるようになりました。卵管異常が理由で体外受精を考えなければならない患者さんにとっては、有効だと思います。段々と症例数も増えており、妊娠して卒業された患者さんもいらっしゃいます。

2014年、私にとって印象深かったのは「性教育セミナー」の開催でした。看護業務をしながら、セミナーをどう開催していくか、毎晩遅くまで残って担当スタッフと話し合い、講師先生との慣れないメールのやり取りをし、初めてのことに「何から始めたらよいか?」「何をしたらよいか?」もわからない状態からのスタートでした。

ルカスタッフや業者さんのご協力のもと、7月12日に無事、「第2回大分性教育セミナー」を開催することができました。講師に熊本の池田クリニック院長の池田稔先生、京都大学大学院医学研究科准教授の木原雅子先生にお越しいただき、まず午前中は児童養護施設別府平和園で子どもたちと保育士へ、午後より大分市のコンパルホールで一般市民の方々や大分市、別府市の教職員の方々を対象に講演していただきました。100名を超える参加があり、参加された方々からも沢山の貴重なご意見を頂きました。

私自身はルカに入社して14年目を迎える事ができました。14年の間には、パート勤務から正社員となり、主任という役職も頂き、生殖医療相談士の勉強にも1年間参加させて頂きました。さらに、国内の学会や海外のヨーロッパ生殖医学会にも参加させて頂き、たくさんの情報や知識を得ることができました。色々な経験をさせて頂いたなかで、成長できたと感謝しています。

看護部では、勤続年数も長くなり、自分自身のスキルアップはできているのか? スタッフ間での配慮はできているのか? など初心に戻り仕事を見直すことやお互いのいろいろな意見を取り入れることも大切ではないかと思います。

私自身、この「一年を振り返って」を書くことによって、自分の振り返りや今からどう仕事をしていくのか? どういう姿勢で取り組んでいくのか? などを考えるきっかけになったように思います。

大津 英子

この1年は、受精卵着床前スクリーニング(PGS)が日本産科婦人科学会で議論され、院長も PGS に関する小委員会ワーキンググループのメンバーとして、頻繁に大分と東京を往復されていました。そして、いよいよ臨床研究が開始されようとしています。

さらに振り返ると、17年前の1998年夏、大学生の私が就職希望により院長面接を受けた際に、FISH 法の話が出たのを覚えています。私はその当時、FISH (fluorescence in situ hybridization) 法を用いて未知の細菌を同定する研究をしていました。イギリスに留学していた大学の担当教官が、世界でも新しい技術で研究をしようと PCR やシーケンス、FISH 法を導入して、その研究をさせてもらっていたことが誇りでしたが、その反面、比較的新しい技術でしたので、就職の面接官に説明するのは一苦勞でした。

ところが、院長はしどろもどろ説明する私に、「要するに FISH 法かね?」と言われ、とても驚きました。無事セント・ルカに採用された後、ヒトの受精卵の多くは染色体数的異常であり、FISH 法は生殖医療に重要なツールであることを知りました。

PGSの臨床応用は紆余曲折の末、大きく動き出そうとしています。入職当時に既に院長より PGS の可能性の話を知っていた私には、この1年は大きな転換点であったと感じています。すばらしい形態良好胚であっても、多くは染色体異常で着床できない胚であることは疑いようもない事実です。染色体検査の感度が十分であり、胚生検が適切であれば…と移植あたりの妊娠率向上を期待せずにはられません。

17年前は夢のような話であった1細胞からの遺伝子検査(アレイ CGH など)も可能となりました。そこで「胚生検が適切であること」これが大きな鍵を握っていると思います。私たちがいう採血をされる、若しくは、爪を切る程度の胚への負担でなければ、折角の技術も無用の長物でしょう。生検の技術を万端に整えるべく、若干の高揚感を感じる2015年の春を迎えました。

1年を振り返るはずが、私の胚培養士人生を振り返ってしまいましたが、それぞれの培養室スタッフはこの1年も地に足をつけた活動をきっちりとこなしてくれています。詳しくは、副室長 長木美幸の「一年を振り返って」をご覧ください。特になが患者さんへの生殖補助医療側からの活動は、うえお乳腺外科院長の上尾裕昭先生のもと大きく一歩を踏み出せた年であったと思います。この一歩を歩み続ける努力と、10年後を見越して、さらに新しい一歩が踏み出せる1年にしたいと思います。

長木 美幸

新しい年度が始まり、2014年を振り返ってみると、2013年に開催した第31回日本受精着床学会総会・学術講演会開催のような、初めて行う大きな行事はありませんでしたが、第2回大分がん・生殖医療研究会公開講座と第2回大分性教育セミナーを成功裏に行うことができました。

研究室・培養室は、大分がん・生殖医療研究会公開講座の担当として、講師先生の選出から始まり、講座の終了まで奔走しました。第2回大分がん・生殖医療研究会公開講座終了後には、がん治療に入る前に卵子や胚を凍結保存しておくためのネットワークの必要性を強く感じ、うえお乳腺外科院長の上尾裕昭先生のもと、県下の乳がん治療拠点病院とセント・ルカがうまく連携できるようなシステムを構築することができました。2015年のセント・ルカセミナーも、第3回大分がん・生殖医療研究会を併会し、乳がん以外のがんや血液疾患の患者さんでも治療前に卵子凍結ができる事を広く知ってもらおうと様々な施設に働きかけを行っているところです。

ここ数年、学会などで胚の染色体異常のため、「なかなか妊娠しない」、「妊娠しても流産してしまう」といった患者さんのために、着床前診断の必要性を感じ、声を上げてきましたが、2015年は日本産科婦人科学会でPGS特別臨床研究という形で前進できそうです。

体外受精が始まった頃には染色体の事はほとんど言われていませんでしたが、今では染色体・インプリンティングなどは重要研究分野になっています。培養室からも1名が臨床細胞遺伝学認定士の取得をめざし奮闘中です。

また、着床に関しての研究の必要性を感じ、2014年秋より胚培養士1名が大分大学大学院医学系研究科へ進学しました。

2015年7月で、新病院に移転して5年目に入ります。4月には、大分駅ビルやJR九州ホテルがオープンし、大分市中心部がますます活気付くことと思います。この活気に負けることのないよう、スタッフも誠心誠意患者さんに対応していきたいと思っています。

最後に、セント・ルカでは、院全体の品質方針として、『患者さんの夢の実現のため、世界トップレベルの知識と技術と心を提供する』を掲げています。この方針に恥じることのないよう、最新の医療を提供するため、いつもアンテナを張りめぐらし、新しい研究や時事に目を向け、常に勉学や研究に励み、邁進したいと思っています。

越名 久美

2015年4月JR大分駅ビルがオープンし、4年前の新病院移転時に比べ、ガラリと風景が変わりました。また、東九州自動車道の県内全線開通や、県立美術館のオープンなど、大分も大きく変わろうとしています。

受付は、2014年1月に新入職員が入社、3月に入社7年目の中堅スタッフが結婚退職。更に、12月に新入職員が入社、2015年1月に入社4年目のスタッフが結婚退職と、人事の入れ替わりが激しく、新人教育に打ち込んだ1年だったと思います。

私にとって、新人を含めた受付5人がスムーズに日常業務が行える事が今年の課題の一つでした。受付業務の内訳として、日々の外来業務に加え、予約患者管理（前日に来院予定患者のカルテを準備）、保険入院請求業務、ART請求業務、レセプト業務、不妊治療費助成金申請書の証明書発行、凍結保存料の管理、加えて、それぞれのスタッフのISO委員会活動などがあります。一日平均外来患者約80名を、新人含めての5人で対応していたので、業務をスムーズに回す事は並大抵の事ではありませんでしたが、今では新人も日々成長しています。来年は、受付一人ひとりがこのすべての業務ができるよう教育していきたいと思っています。

私は、患者さんの心に寄り添える心理的サポートも受付にとっては必要なのではないかと考えています。受付だからできること、受付にしかできないことがあると思います。患者さんにとって受付とは、最初と最後に対応する「施設の印象を決める存在」です。患者さんの心に寄り添う内面的な分野の教育は非常に難しく、「生殖医療に携わる受付」として、また少し視野を広げて教育をしていかなければいけない第二の課題です。

2014年も私の個人的な活動として、JISART教育委員会が2回開催されました。JISART教育セミナーをいかに有意義な時間にするか、毎回活発な議論が行われています。今後も、生殖補助医療にふさわしい事務部門になるために、そしてJISARTグループの事務部門が日本の医療事務員のお手本となるように、これからも教育委員会に参加していきたいと思っています。

2015年の病院全体の目標は『一人ひとりが責任を持って行動し、患者さんが安心して受診できる医療を提供する』です。『責任』という言葉の重みを一人ひとりが真摯に受け止め、これらも患者さんの為に全力でサポートできるよう、指導者として邁進していきたいと思っています。

大城 麻依

私がセント・ルカに入社して、約4年が経ちました。慌ただしく過ぎる毎日の中で、このように改めて1年を振り返るのは初めてかもしれません。

大分で唯一の不妊治療専門の病院とあって、毎日たくさんの患者さんが来院されます。ルカに入社する前は、「不妊治療専門の病院」ということしか知らず、入社して、こんなにも多くの患者さんがいることに衝撃を受けました。それと同時に、不妊というものは珍しいものではなく、誰にでも可能性があるものなのだと痛感しました。一方で、この患者さんの多さは、セント・ルカの院長への、患者さんからの大きな信頼のように感じました。

入社してからの毎日はとても足早で、正直なところ、1年前が昨日のことに思えてなりません。常に進化していくセント・ルカ、院長、スタッフと一緒にいると、刺激のある毎日で、忙しいながらも良い経験をさせていただいていると強く感じます。

2015年は第3回目の「性教育セミナー」「がん・生殖医療研究会」を開催します。ひとりでも多くの方たちに、このような会があることを知って頂くために、微力ではありますが、できることを行っていきたいと思います。

私自身、独自で講座を開催している個人病院というのは滅多に耳にしないことですし、このような体験はなかなかできるものではないので、自分の経験値が上がっていくのを嬉しく感じます。

受付は1番最初に患者さんをお迎えし、1番最後に見送ります。毎日溢れるように患者さんが来院されますが、それでも一人ひとりと目を見て対話することを忘れないように心掛けています。患者さんに少しでも寄り添えるように、私だけではきっと取り除けない不安、疑問、悩みを、先生方、看護師、胚培養士、心理士の先生に上手に繋げられるように努力していきたいです。そして、ひとりでも多くの患者さんが前向きな気持ちでお帰りになるのを見送れたらと思います。

2013年、2014年は、2名の先輩が結婚のため退職し、2名の新人さんを迎えました。

まだまだ私の中でも学ぶことが多く、良いお手本になれるか不安な部分もありますが、今日この日まで学んできたことに自信を持って、私が先輩方に教えていただいたように、私も後輩に伝えられるよう、努力したいと思います。

安部 里美

今年もまた、年報作成の時期がやって来ました。昨年の年報は、院長の指示により内容を見直したこともあり、新しい統計を加えたり、新しいページを作ったりと完成までバタバタしていましたが、あれからもう1年が経つのかと、月日が経つ早さを実感します。

2015年4月、JR大分駅は新しく駅ビルが開業し、大きく生まれ変わりました。至る所で工事中だったルカの周辺も、今では綺麗に整備され、とても便利になっています。情報処理室の窓から見える景色も移転当時とはすっかり変わり、毎日外を眺めるのが日課になりました。

ここ数年、新病院への移転や第31回日本受精着床学会総会・学術講演会の開催など、とても大きな出来事を経験してきたルカにとって、2014年は久しぶりに落ち着きを取り戻した年であったように思います。

しかし、開院記念行事であるセント・ルカセミナーの一環として、大分がん・生殖医療研究会や大分性教育セミナーを開催し、新しい取り組みとして、おおいた乳がん生殖医療ネットワークを立ち上げるなど、外部の方と関わる活動も多い年でした。

そのような活動と日々の業務で慌ただしく過ぎていく毎日ですが、情報処理室としては、ITの分野にも目を向けなければいけません。近年では、Windows7やWindows8.1などのOSが次々に発表され、2015年の夏にはWindows10が発売されることも聞きます。新しいOSに伴いOfficeのバージョンもどんどん新しくなっています。新しいOSが出る度にパソコンを買い替えるというわけにはいきませんが、いつ院内のパソコンを買い替えなければいけない日が来るかわかりません。そのような時になって、慌てて現在のシステムが新しいOSに対応できるのか、新しいOSの使い勝手はどうかなどと調べることがないよう、日頃から情報収集していかなければと思っています。私にとってITは苦手分野のため、つい後回しにしがちですが、苦手だからと目を背けるのではなく、知識を増やして、苦手意識を克服することを目標に努力したいと思っています。

情報処理室にとっての大きな出来事として、2015年3月末に、情報処理室の部署長が退職しました。3人体制から2人体制へと人数が減ったことでの大変さもありますが、色々な場面で前部署長に頼っていた部分があるので不安が残っています。しかし、私も入社して10年以上が経ちました。いつまでも先輩に甘えるのではなく、より責任感を持ち、様々なところに目を向けて、自分を成長させていきたいと思っています。

新しい体制になりましたので、これまで以上に他部署との連携を図り、協力して日々の業務にあたりたいと思っています。

山路 美和

大分駅ビルの開業に伴い、セント・ルカ産婦人科の周辺も2011年の移転当初と比べると随分と様変わりしました。4階の情報処理室からはとても見晴らし良く景色が見えます。

駅を行き交うビジネスマンや建設現場で働く人たちを見ては、誰もが頑張っているんだと、力をもらっています。と、考えながら、ふと患者さんの言葉を思い出しました。当院を卒業後に書いていただくアンケートにはよく、「待合室にいる多くの患者さんを見て、自分だけではないんだと力強く感じた」というような言葉が書かれています。誰しも選ばれて今ここにいるのだと、いつかの聖書の学びで教えていただいた言葉に励まされます。

さて、2014年を振り返ってみますと、ここ数年のようなビッグイベントはありませんでしたが、充実した1年間だったと感じています。2011年の新築移転、2013年の第31回日本受精着床学会総会・学術講演会開催など、準備段階から考えると、この約5年間はまさに激動の年でした。しかし、苦勞したことも大変だった日々も、今思い返すと懐かしい思い出になっているのが不思議です。

セント・ルカ産婦人科の2014年は、性教育セミナーやがん・生殖医療研究会の開催、『おおいた乳がん生殖医療ネットワーク』の立ち上げなど、独自の成果を遂げたと思います。

私個人としては、ミュンヘンで開催されたヨーロッパ生殖医学会(ESHRE)に参加させていただいたこと、『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』本の改訂に携わったことが、振り返ってみると大きく印象に残っています。

ESHREへの参加に際しては、学会発表の経験もない私を連れて行っていただき感謝しています。と同時に、私にとって大きな糧となりました。『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』本は、2002年の初版の発行から数年毎にデータなどを改訂してきました。今回改めて読み返し、院長の理念や治療方針などは今もぶれることなく、色あせない言葉に驚きました。データだけでなくイラストやデザインを一新し、患者さんに是非とも活用していただきたい1冊に仕上がったと思います。

2015年春、情報処理室は大きな転機を迎えました。部署長が退職し、3人体制から2人体制になりました。私も入社9年目を迎え、いつまでも誰かに頼っていてはいけないと身を引き締めました。私自身はまだまだ未熟さを痛感するばかりですが、情報処理室のスタッフとして広い視野で物事を見て、常に先回りの対応ができるように心掛けたいと思います。

矢野 千恵美

雨がよく降る日が続いています。これも春を待つ子(芽)の為でしょう。

2014年のルカは静かな1年だったと思います。

春のお花見は、雨続きで外には出られず、平日のランチを4階にあるテラスでバーベキューランチにさせていただきました。ルカが火事? と思えるほどの煙で大騒動。おかしいやら煙たいやらで涙ポロポロでした。このような経験は初めてでしたが、皆も楽しそうでした。

続いて職員旅行では、鹿児島に行かせていただきました。これまた午前中は雨。しかし、午後からは日が差し始め、空もすっきり晴れ渡り、城山から見た桜島はとても綺麗なものでした。

1年を通して、何かと行事がある日は雨だったように思われます。

話は変わり、ルカの談話室では、患者さんにゆっくりくつろいでいただく為に、コーヒーやお茶などを提供させていただいているのですが、つい先日、そのスタンバイを行っていた時の事です。

一人の患者さんから、「キッチンの方ですか?」と声を掛けられました。「はい、そうです!」と元気に返事をしましたが、少し不安になり、「どうかされましたか?」と聞き返すと、「私、以前入院したことがあり、その時の食事がとても印象的で、お礼を言いたかったのですが…」と答えてくださいました。私も、「こんなに丁寧にお礼を言っていただき、恐縮です。」と返すと、「ずっと気になっていたもので、ここで会えて良かったです。胸の痞えがとれました。」とまで言っていただきました。

その言葉が、“この仕事をやってきて良かった”、“退院してからも、心に留めていて下さる方が一人でもいてくれた”という喜びで、私の方こそ感動しました。

これからも、心に残るような美味しい食事を作っていこうと、心新たに邁進していこうと思います。



診療統計

開院から2014年までの成績



開院から2014年までの成績

(1992.6.3 ~ 2014.12.31)

当院の患者数

1) 開院 (1992.6.3) ~ 本年 (2014.12.31) までの外来患者数	24,097人
(内訳) 男性	8,769人 (36.4%) (平均年齢34.1才)
正常	4,567人 (52.1%)
未検査・未診断	323人 (3.7%)
異常	3,879人 (44.2%)
女性	15,328人 (63.6%) (平均年齢31.9才)
・ 拳児希望の女性	11,881人 (77.5%) (平均年齢31.8 ± 4.6才)
・ 2013年1年間の拳児希望女性	462人 (平均年齢34.1 ± 4.6才)
・ 妊娠件数	7,404件 (平均年齢32.4 ± 4.3才)
・ 妊娠に至らなかった女性	5,639人
2) 妊娠率 (患者あたり)	52.5% {(11,881-5,639)/11,881}
3) 治療を途中で諦めた女性	5,378人 (45.3%)
A) 諦めざるをえなかった人 (無精子症, 早発閉経, 高齢など)	1,267人 (10.7%)
B) いつの間にか諦めた人	4,111人 (34.6%)
4) 実妊娠率 (Aを除く患者あたり)	58.8% {(11,881-5,639)/(11,881-1,267)}
5) 実妊娠率 (A, Bを除く患者あたり)	96.0% {(11,881-5,639)/(11,881-5,378)}

妊娠に至った主たる有効治療

ART (生殖補助医療) 全体	3,298例	(44.5%)
IVF-ET (体外受精)	690例	(9.32%)
MF-ET (顕微授精)	1,026例	(13.86%)
CRYO-ET (凍結胚移植)	1,539例	(20.79%)
GIFT (配偶子卵管内移植法)	38例	(0.51%)
ZIFT (接合子卵管内移植法)	5例	(0.07%)
ART (生殖補助医療) 以外	4,106例	(55.5%)
IUI (選別精子子宮内注入法)	790例	(10.67%)
hMG+hCG, Gn-RHa	809例	(10.93%)
クロミフェン	464例	(6.27%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	788例	(10.64%)
HSG (子宮卵管造影法) 直後	587例	(7.93%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	488例	(6.59%)
腹腔鏡検査および子宮鏡手術	1例	(0.01%)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	12例	(0.16%)
リンパ球免疫療法	15例	(0.20%)
その他	152例	(2.05%)
計	7,404例	(100%)

妊娠の転帰

他院へ紹介済	5,327例	(71.95%)
流産	1,753例	(23.68%)
異所性妊娠	200例	(2.70%)
胞状奇胎	14例	(0.19%)
中絶	1例	(0.01%)
不明	109例	(1.47%)
計	7,404例	(100%)

出産結果 (他院へ紹介済の5,327例中、妊娠結果が判明している4,959例について)

1) 妊娠結果

満期産	4,321例	(87.13%)
満期産+死産*	4例	(0.08%)
満期産+異所性妊娠*	1例	(0.02%)
満期産+奇形中絶*	1例	(0.02%)
早産	470例	(9.48%)
早産+死産*	9例	(0.18%)
過期産	18例	(0.37%)
死産	54例	(1.09%)
流産	60例	(1.21%)
流産+死産*	1例	(0.02%)
奇形中絶	15例	(0.30%)
人工妊娠中絶	5例	(0.10%)
計	4,959例	(100%)

* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

2) 多胎妊娠について

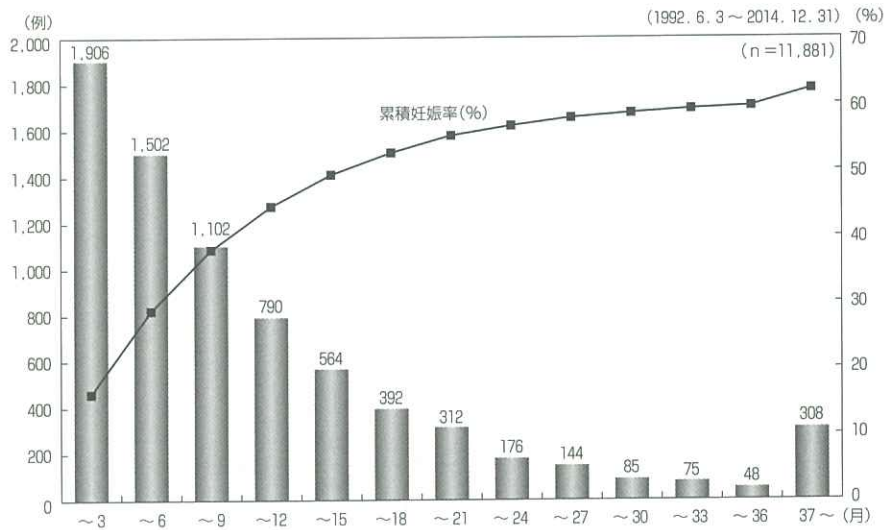
単胎	4,590例	(92.6%)	4,590児
双胎	353例	(7.1%)	706児
品胎	16例	(0.3%)	48児
計	4,959例	(100%)	5,344児

3) 出生児の状態

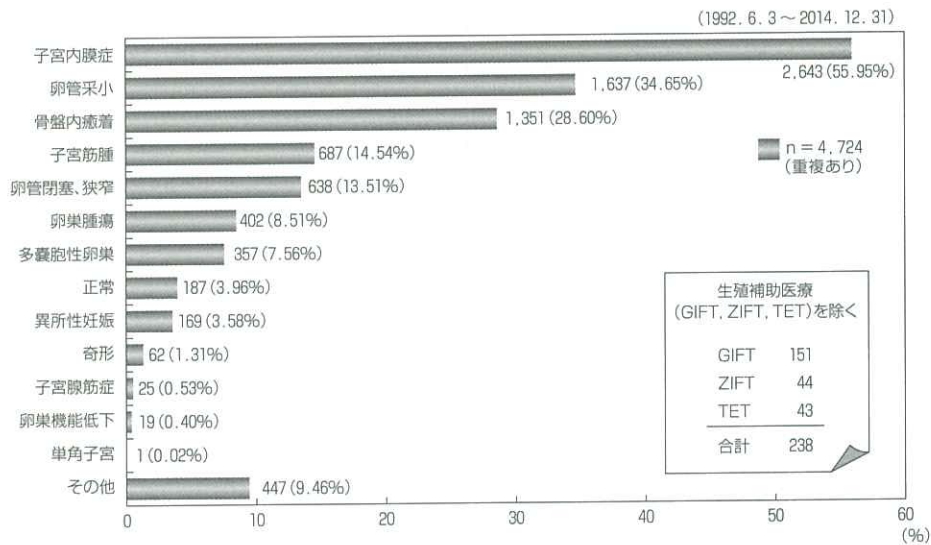
正常	4,188児	(78.4%)
低体重児	816児	(15.3%)
異常(死産等含む)	340児	(6.3%)
(うち奇形を含む主な異常)	(204児)	(3.8%)
計	5,344児	(100%)

(2014/12/31 セント・ルカ産婦人科)

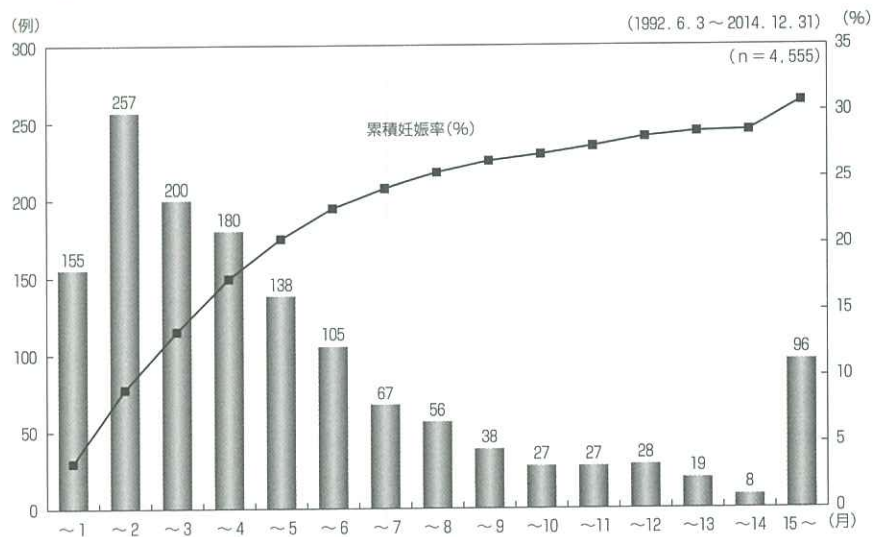
初診後妊娠までの期間



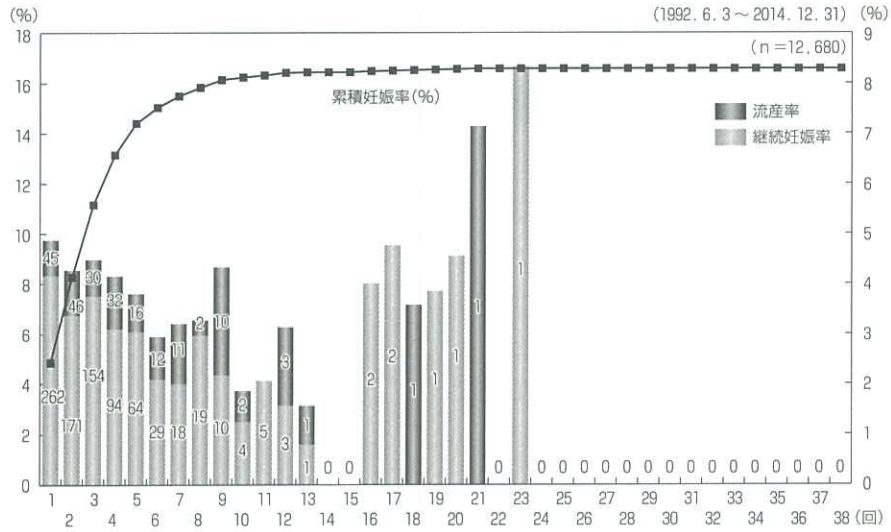
不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断



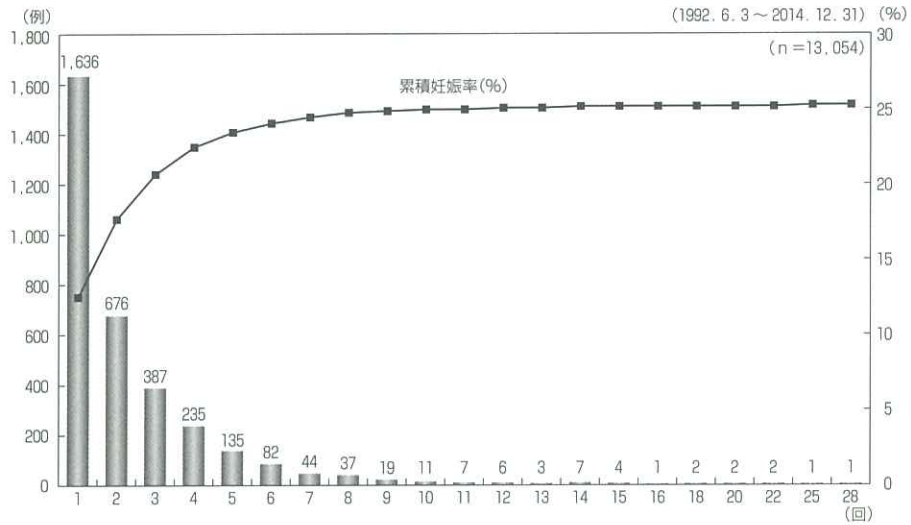
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



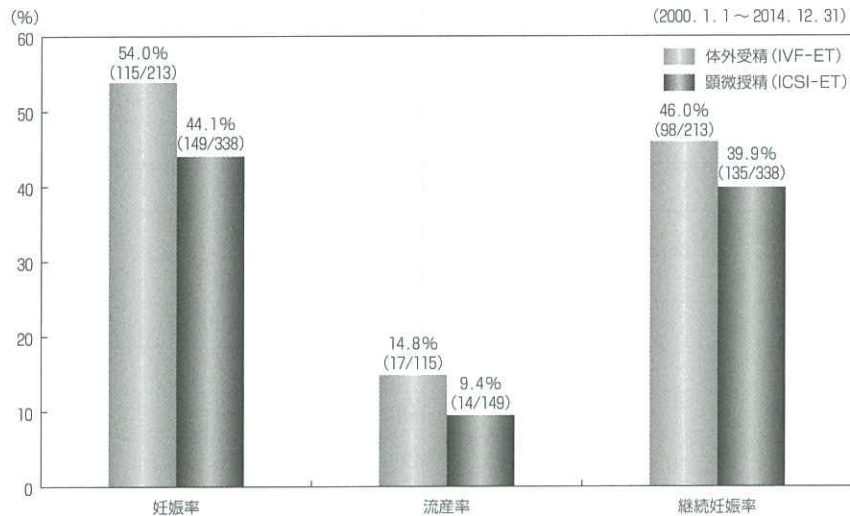
IUI (選別精子子宮内注入法) による回数別妊娠率



ART (生殖補助医療 / 体外受精・顕微授精・GIFT) による妊娠



35歳未満・体外受精1回目の妊娠率



妊娠数

(1992.6.3 ~ 2014.12.31)

	周 期	1992～2011	2012	2013	2014	合 計
体外受精胚移植 (IVF-ET)	採 卵	3,296	104	82	47	3,529
	移 植	2,414	42	31	20	2,507
	妊 娠	656 (27.2%)	16 (38.1%)	9 (29.0%)	7 (35.0%)	688 (27.4%)
顕微授精胚移植 (MF-ET)	採 卵	6,380	511	521	638	8,050
	移 植	4,299	230	215	301	5,045
	妊 娠	863 (20.1%)	42 (18.3%)	41 (19.1%)	75 (24.9%)	1,021 (20.2%)
凍結融解胚移植 (ICSI後凍結含む) (CRYO-ET)	凍結融解周期	4,031	524	561	516	5,632
	移 植	3,623	487	533	476	5,119
	妊 娠	944 (26.1%)	167 (34.3%)	202 (37.9%)	178 (37.4%)	1,491 (29.1%)
体外成熟培養後 凍結融解胚移植 (IVM-CRYO-ET)	凍結融解周期	130	19	16	9	174
	移 植	105	17	14	8	144
	妊 娠	36 (34.3%)	7 (41.2%)	2 (14.3%)	2 (25.0%)	47 (32.6%)
配偶子卵管内移植 (GIFT)	採 卵	153	0	0	0	153
	移 植	151	0	0	0	151
	妊 娠	38 (25.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	38 (25.2%)
接合子卵管内移植 (ZIFT)	採 卵	44	0	0	0	44
	移 植	44	0	0	0	44
	妊 娠	5 (11.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (11.4%)
体外受精胚 卵管内移植 (IVF-TET)	採 卵	22	0	0	0	22
	移 植	21	0	0	0	21
	妊 娠	2 (9.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (9.5%)
顕微授精胚 卵管内移植 (MF-TET)	採 卵	18	0	0	0	18
	移 植	18	0	0	0	18
	妊 娠	5 (27.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (27.8%)
凍結融解胚 卵管内移植 (CRYO-TET)	凍結融解周期	3	0	0	0	3
	移 植	3	0	0	0	3
	妊 娠	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)
体外成熟培養 体外受精胚移植 (IVM-IVF-ET)	採 卵	8	0	0	0	8
	移 植	0	0	0	0	0
	妊 娠	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
小 計	採 卵	9,921	615	603	685	11,824
	凍結融解周期	4,164	543	577	525	5,809
	移 植	10,678	776	793	805	13,052
	妊 娠	2,550 (23.9%)	232 (29.9%)	254 (32.0%)	262 (32.5%)	3,298 (25.3%)

ART*以外の妊娠数	3,604	188	161	153	4,106
妊娠総数	6,154	420	415	415	7,404


*生殖補助医療

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出来ます



診療統計

2014年一年間の成績



2014年 一年間の成績

外来患者数

(2014.1.1 ~ 2014.12.31)

	午前診療	河邊外来	夕方診療	合 計
1月	1,204	151	210	1,565
2月	1,335	163	238	1,736
3月	1,493	166	193	1,852
4月	1,352	154	199	1,705
5月	1,421	152	218	1,791
6月	1,499	148	240	1,887
7月	1,650	164	181	1,995
8月	1,556	172	230	1,958
9月	1,422	185	230	1,837
10月	1,602	164	169	1,935
11月	1,518	148	186	1,852
12月	1,336	167	224	1,727
合 計	17,388	1,934	2,518	21,840

初診患者数

(2014.1.1 ~ 2014.12.31)

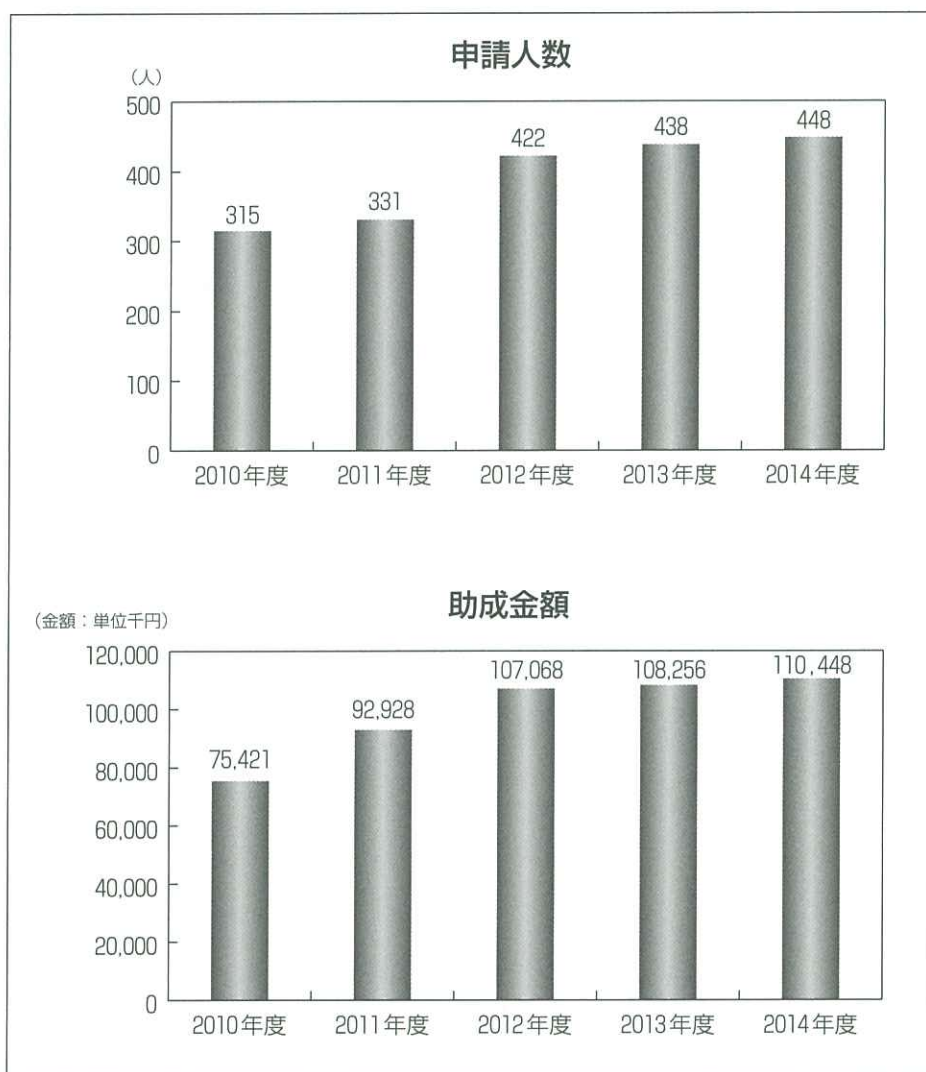
	午前診療	河邊外来	合 計
1月	43	10	53
2月	55	7	62
3月	50	3	53
4月	49	11	60
5月	44	4	48
6月	40	5	45
7月	50	4	54
8月	52	4	56
9月	51	6	57
10月	51	8	59
11月	35	4	39
12月	29	2	31
合 計	549	68	617

不妊治療費助成金申請内訳

2014年度

	人 数	申請回数	助成金額(円)
大 分 県	168	265	37,641,100
大 分 市	214	381	64,655,710
他 県	3	5	675,000
市町村のみ	63	73	7,477,000
合 計	448	724	110,448,810

過去5年分(2010年度～2014年度)のまとめ



妊娠に至った主たる有効治療

ART (生殖補助医療) 全体	262例	(63.1%)
IVF-ET (体外受精)	7例	(1.7%)
MF-ET (顕微授精)	75例	(18.0%)
CRYO-ET (凍結胚移植)	180例	(43.4%)
ART (生殖補助医療) 以外	153例	(36.9%)
IUI (選別精子子宮内注入法)	9例	(2.2%)
hMG+hCG, Gn-RHa	36例	(8.7%)
クロミフェン	5例	(1.2%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	29例	(7.0%)
HSG (子宮卵管造影法) 直後	37例	(8.9%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	29例	(7.0%)
腹腔鏡検査および子宮鏡手術	1例	(0.2%)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	2例	(0.5%)
その他	5例	(1.2%)
計	415例	(100%)

妊娠の転帰

他院へ紹介済	279例	(67.2%)
流産	123例	(29.6%)
異所性妊娠	11例	(2.7%)
不明	2例	(0.5%)
計	415例	(100%)

※出産結果は全ての妊娠結果が判明している2013年の妊娠を対象とする

出産結果 (2013年に妊娠し他院へ紹介済の279例中、妊娠結果が判明している254例について)

期間(2013.1.1~2013.12.31)

1) 妊娠結果

満期産	223例	(87.8%)
早産	24例	(9.4%)
過期産	1例	(0.4%)
死産	2例	(0.8%)
流産	2例	(0.8%)
奇形中絶	2例	(0.8%)
計	254例	(100%)

2) 多胎妊娠について

単胎	246例	(96.9%)	246児
双胎	8例	(3.1%)	16児
計	254例	(100%)	262児

3) 出生児の状態

正常	222児	(84.7%)
低体重児	27児	(10.3%)
異常(死産等含む)	13児	(5.0%)
(うち奇形を含む主な異常)	(9児)	(3.4%)
計	262児	(100%)

異常児の詳細 (2013年の妊娠で出生した262児のなかの9児について)

主な異常 9児	9児/262児 (3.4%)		うち ART*児 : 5児/140児 (3.6%)		ART 以外児 : 4児/122児 (3.3%)	
	ART	ART 以外	ART	ART 以外	ART	ART 以外
21-Trisomy	0児	1児			1児	0児
脳室拡大	1児	0児			1児	1児
心室中隔欠損症	1児	0児			0児	2児
胎児心逸脱	1児	0児				

*生殖補助医療

手術・入院数

(2014.1.1 ~ 2014.12.31)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
手術数													
腹腔鏡手術	14	16	26	19	15	12	15	14	16	18	20	12	197
腹腔鏡下 子宮筋腫核出術	2	2	1	0	2	1	2	2	0	1	1	3	17
子宮筋腫核出術(開腹)	1	2	3	0	1	3	2	1	3	0	1	0	17
腹腔鏡下 子宮外妊娠手術	0	2	0	1	1	0	3	0	0	0	1	1	9
経頸管子宮筋腫切除術 (TCR)	0	2	0	0	1	2	1	0	1	0	3	1	11
子宮内容除去術 (流産のため)	6	5	8	5	7	8	10	10	7	8	15	6	95
卵管鏡下卵管形成術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
子宮内膜搔爬術	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
卵胞穿刺術	0	0	0	3	3	5	1	0	1	3	0	1	17
開腹手術 (子宮全摘出術)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他	1	4	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	10
合 計	24	34	39	28	31	31	35	28	29	31	42	27	379

安静入院

卵巢過剰刺激症候群	0	1	2	0	0	0	1	0	0	1	1	0	6
切迫流産安静	0	0	0	3	1	0	2	2	1	0	1	5	15
その他	0	1	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	6
合 計	0	2	2	3	2	0	3	3	2	3	2	5	27

体外受精入院

採 卵	47	65	53	69	36	79	47	63	61	59	62	44	685
胚移植	17	24	22	34	11	34	22	31	34	37	33	22	321
凍結胚移植	44	30	43	46	42	47	46	37	34	40	41	35	485
GIFT, ZIFT, TET	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	108	119	118	149	89	160	115	131	129	136	136	101	1,491

入院総計	132	155	159	180	122	191	153	162	160	170	180	133	1,897
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

ART (生殖補助医療) による妊娠

(2014.1.1 ~ 2014.12.31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	47	20 (42.6%)	7 (35.0%)	2 (28.6%)
MF-ET (男性因子以外も含む)	638	301 (47.2%)	75 (24.9%)	17 (22.7%)
(ICSI)	592	301 (50.8%)	75 (24.9%)	17 (22.7%)
CRYO-ET	527	486 (92.2%)	180 (37.0%)	73 (40.6%)
ART.total	1,212	807 (66.6%)	262 (32.5%)	92 (35.1%)

ART (生殖補助医療) による出産および出生児の状況

(2013.1.1 ~ 2013.12.31)

2013年に妊娠し、2014年12月31日までに妊娠結果が判明している138周期に限る				
妊娠結果	満期産		121周期 (87.7%)	
	早産		14周期 (10.2%)	
	流産		2周期 (1.4%)	
	奇形中絶		1周期 (0.7%)	
多胎妊娠について	140児	単胎	136例 (98.6%)	136児
		双胎	2例 (1.4%)	4児
低体重児	16児 (11.4%)			
異常児	7児 (5.0%)	うち奇形を含む主な異常	5児 (3.6%)	



セント・ルカ産婦人科

一年のあゆみ



機器導入	3台		
卵管鏡(テルモ)	1		
ドライインキュベーター(アステック)	2		
学会発表	41題		
院長	4		
医局	4		
看護部	15		
研究室・培養室	18		
講演・講師	2題		
院長	2		
学会・講演会参加	37回		
研修会	23回		
著書(共著)	4編		
総説	1編		
主催講演	6回		
第20回セント・ルカセミナー			
第2回大分性教育セミナー	1	総参加人数	121名
第2回大分がん・生殖医療研究会公開講座	1	総参加人数	46名
『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座	4	総参加人数	321名
不妊カウンセラー活動	40回		
新患教室	7	総参加人数	494名
体外受精教室	12	総参加人数	690名
ガーネットサークル	4	総参加人数	22名
オリーブの会	7	総参加人数	28名
ご夫婦二人だけの生活を選ばれた 元患者さんを囲む会	1	総参加人数	11名
ウェイトサークル	9	総参加人数	26名

行事一覧

2014

1. 4	新年会(セント・ルカ多目的ホール)
1. 4	新職員 藤沢奈津美(受付)
1.18	第199回 体外受精教室 参加者79名 参加<足立小、下川、小池、岡田、松土、二宮、越光>
1.18	第3回 第9期オリーブの会 参加者5名
1.19	平成25年度大分県医師会母体保護法指定医師研修会(大分) 参加<院長>
1.21	第178回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
1.25	第55回 ガーネットサークル OG1名、参加者5名
1.25	第35回 日本エンドメトリオーシス学会(鹿児島) 参加<長木、越光、院長> 発表:「子宮内膜症及びその他の腹腔鏡下手術と卵巣予備能の変化」(院長)
1.28	院内全体研修:避難訓練(担当:情報処理室)
1.28	院内全体研修:ココロ元気にしてありますか(担当:心理専門相談室)
1.28	平成25年度大分県防火・防災管理講習(大分) 参加<越名、後藤裕>
1.30	平成25年度一般社団法人日本卵子学会臨時社員総会(代議員会)(東京) 参加<院長>
2. 1	A-PART 日本支部 Minimal Stimulation 研究会学術講演会2014(東京) 参加<小池、熊迫、院長> 座長:Session3「培養関係」(熊迫陽子)
2. 2	がんと生殖に関するシンポジウム2014-血液がん患者さんの不妊対策を考える-(東京) 参加<小池、熊迫、院長>
2. 4	第179回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
2. 7	第8回 大分女性医学フォーラム(大分) 参加<河邊、院長>
2. 8	第56回 『赤ちゃん~今ならきつと授かる~』講座(大分・トキハ会館) 参加者92名 講師<越名(受付)、後藤裕(看護師長)、稗田(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 院長 緒方俊一先生> 参加<安部、藤沢、下川、城戸、戸高、坂本、足立直、斉高>
2.10	第1回 西別府病院生殖医療フォーラム(別府) 参加<大津、院長>
2.16	JISART 施設認定審査説明会&審査員研修(東京) 参加<越名>
2.16	第4回 JISART 事務教育委員会(東京) 参加<越名>
2.18	院内全体研修:心肺蘇生法(担当:看護部)
2.22	第200回 体外受精教室 参加者64名 参加<藤沢、足立小、下川、後藤香、松土、二宮、関>
2.22	日本生殖医療心理カウンセリング学会 生殖医療相談士2013年度継続研修会(東京) 参加<城戸、手島、後藤裕>
2.23	第11回 日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(東京) 参加<城戸、手島、越光、後藤裕、稗田、院長> 発表:「不妊症患者の非配偶者間生殖補助医療に対する意識調査」(越光直子)
2.25	安全管理研修:感染対策 手洗いについて(担当:看護部)
2.28	第219回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<河邊、院長>
3. 1	第4回 第9期オリーブの会 参加者5名
3. 1	第7回 「生殖と女性医学」講演会(東京) 参加<院長>
3. 3	第113回 大分県周産期研究会(大分) 参加<山路、安部、油野、藤沢、青木、渡邊、越名、下川、佐藤、長木、大津、戸高、坂本、手島、北田、岡田、亀井、松元、二宮、斉高、赤嶺、関、篠田、越光、後藤裕、稗田、河邊、院長> 発表:「女性の加齢による染色体異常の実際(着床前診断の必要性)」(大津英子) 「体外受精治療中の患者を対象とした性生活と日常生活についての意識調査」(二宮睦)
3. 5	医療機関等における防災研修会(大分) 参加<関>
3. 8	第77回 新患教室 参加者60名 参加<藤沢、越名、熊迫、戸高、坂本、川村、足立直、後藤裕>
3.10	第12回 別府遺伝医学セミナー(別府) 参加<城戸、大津>

行事一覧

3.11	第180回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
3.11	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』夏号 (Vol.22) 取材
3.12	日本産科婦人科学会 第1回 PGS に関する小委員会 (東京) 参加<院長>
3.15	日本卵子学会 第4回理事会 (東京) 参加<院長>
3.16	日本生殖再生医学会第9回学術集会 (大阪) 参加<後藤香、長木、院長> 発表:「初期胚品質評価のためのタイムラプス(Primo Vision)観察と胚呼吸量測定について」(後藤香里) 「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」(長木美幸)
3.18	平成26年度診療報酬改訂に伴う医科の説明会 (大分) 参加<足立小、越名>
3.22	第201回 体外受精教室 参加者55名 参加<油野、藤沢、足立小、下川、大津、戸高、二宮、関、稗田>
3.23	平成26年診療報酬改正説明会 (大分) 参加<足立小、越名>
3.25	第20回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員: 上野徳美先生 (大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、緒方俊一先生 (おがた泌尿器科医 院 院長)、後藤裕子 (セント・ルカ産婦人科 看護師長)、近藤邦子先生 (別府平和園 保育士)、 野村陽一先生 (日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十首順) オブザーバー: 稗田真由美 (セント・ルカ産婦人科 臨床心理士)
3.26	ドライインキュベーター導入
4. 5	新職員 下馬場優子 (看護部)
4. 5	第78回 新患教室 参加者78名 参加<越名、下川、城戸、戸高、足立直、斉高、篠田、稗田>
4. 5	第1回 ウェイトサークル 参加者3名
4. 8	第181回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
4.11	第39回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会 (大分) 参加<山路、安部、藤沢、大城、青木、足立小、下川、小池、佐藤、後藤香、熊迫、長木、戸高、手島、 北田、川村、岡田、亀井、松元、二宮、赤嶺、関、篠田、後藤裕、稗田、河邊、院長> 「心疾患と女性ホルモン」(国立循環器病研究センター周産期・婦人科 部長 吉松淳先生)
4.12	第202回 体外受精教室 参加者49名 参加<藤沢、足立小、大津、下馬場、岡田、松土、関、稗田>
4.12	第5回 第9期オリーブの会 参加者5名
4.13	職員旅行(沖縄班) 参加<山路、安部、大城、青木、足立小、越名、下川、佐藤、後藤香、熊迫、長木、大津、戸高、 手島、岡田、亀井、足立直、松元、関、越光、後藤裕、河邊、事務長、院長>
4.13	職員旅行(鹿児島1班) 参加<工藤、矢野、藤沢、北田、川村、斉高、赤嶺、稗田>
4.13	加藤修先生お別れの会 (東京) 参加<院長>
4.18	第66回 日本産科婦人科学会 (東京) 参加<院長>
4.18	JEMS (本邦における子宮内膜症の癌化の頻度と予防に関する疫学研究) 担当者会議 (東京) 参加<院長>
4.19	第56回 ガーネットサークル OG1名、参加者4名
4.20	IFFS / JSRM International Meeting 2015「第4回組織委員会」(東京) 参加<院長>
4.21	平成26年度大分大学医学科6年次産婦人科実習: 高崎智美先生 (5月23日まで)
4.26	第10回 九州産婦人科内視鏡手術研究会 (福岡) 参加<関、越光、河邊、院長> 発表:「3D カメラ、モニターを導入した Laparoscopic myomectomy (LM)」(院長)
4.27	第71回 九州・沖縄生殖医学会 (福岡) 参加<下川、後藤香、大津、二宮、関、篠田、越光、稗田、河邊、院長> 発表:「初期胚品質評価のためのタイムラプス(Primo Vision)観察と胚呼吸量測定について」(後藤香里) 「初期胚における多核の原因分析」(大津英子) 「体外受精治療中の患者を対象とした性生活と日常生活についての意識調査」(二宮睦) 「当院治療中患者の特定不妊治療助成金制度に対する意識調査」(関こずえ) 「治療を諦めた患者の聞き取り調査」(篠田多加子) 「子宮内膜症卵巣嚢胞エタノール固定術後の卵巣予備能の変化と腹腔内癒着の有無」(河邊史子)

5.10	第57回 『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者94名 講師(越名(受付)、後藤裕(看護師長)、稗田(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 院長 緒方俊一先生) 参加(山路、藤沢、下川、熊迫、下馬場、戸高、坂本、川村、足立直)
5.13	日本産科婦人科学会 第2回 PGS に関する小委員会(東京) 参加(院長)
5.15	大分産婦人科 JOY 会(大分) 参加(河邊)
5.17	第2回 ウェイトサークル 参加者4名
5.17	第55回 日本卵子学会(兵庫) 参加(後藤香、大津、院長) 座長:ランチョンセミナー「2」(院長) 発表:「タイムラプス(Primo Vision)観察と胚呼吸量測定を用いた初期胚品質評価の可能性」(後藤香里) 「ヒト初期胚における多核の原因検討」(大津英子) (学術奨励賞受賞)
5.17	第13回 日本卵子学会培地開発委員会(兵庫) 参加(院長)
5.17	吉村恭典先生の新たな出発を祝う会(東京) 参加(院長)
5.19	新職員 下原佐由里(看護部)
5.20	第182回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
5.26	Genesis Genetic Asis 視察(台湾) 参加(佐藤、大津、院長)
5.31	第203回 体外受精教室 参加者81名 参加(足立小、小池、下原、岡田、松土、二宮、越光、稗田)
5.31	第6回 第9期オリーブの会 参加者2名
6.3	マネジメントレビュー
6.4	第13回 別府遺伝医学セミナー(別府) 参加(下川、城戸)
6.6	第2回 大分産婦人科 update(大分) 参加(河邊)
6.7	第6回 JISART 心理教育セミナー(北海道) 参加(稗田)
6.7	第7回 JISART 受付教育セミナー(北海道) 参加(越名)
6.7	第7回 JISART ラボ教育セミナー(北海道) 参加(大津)
6.7	第11回 JISART 看護教育セミナー(北海道) 参加(後藤裕)
6.7	第47回 JISART 拡大理事会(北海道) 参加(院長)
6.8	第12回 JISART シンポジウム(北海道) 参加(越名、大津、後藤裕、稗田、院長)
6.10	セント・ルカ産婦人科職員親睦会 中岳登山
6.12	大分県立看護科学大学(大分) 講義 参加(工藤、藤沢、小池、下原、下馬場) 講義:「不妊症講座」(院長)
6.14	第79回 新患教室 参加者83名 参加(越名、佐藤、下原、下馬場、坂本、川村、斉高、越光、稗田)
6.17	院内感染研修:B型肝炎キャリアについて(担当:看護部)
6.18	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』秋号(Vol.23)取材
6.20	日本受精着床学会 平成26年度 第1回常務理事会(東京) 参加(院長)
6.20	第220回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加(河邊)
6.21	第204回 体外受精教室 参加者60名 参加(藤沢、足立小、長木、下馬場、岡田、松土、二宮、関、稗田)
6.21	第7回 第9期オリーブの会 参加者5名
6.21	第26回 大分内視鏡外科研究会(大分) 参加(河邊) 発表:「子宮内膜症卵巣嚢胞エタノール固定術後の卵巣予備能の変化と腹腔内癒着の有無」(河邊史子)
6.23	釘宮磐大分市長を囲んでの亀馬会(大分) 参加(院長)
6.24	第183回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院

行事一覧

6.24	第114回 大分県周産期研究会(大分) 参加(安部、油野、藤沢、大城、足立小、下川、小池、佐藤、熊迫、大津、下馬場、戸高、坂本、手島、北田、川村、亀井、足立直、斉高、赤嶺、岡田、関、篠田、越光、後藤裕、稗田、院長) 発表:「内分泌と精液検査パラメーターからみた造精機能と生活習慣との関連について」(熊迫陽子) 「不妊症患者の非配偶者間生殖補助医療に対する意識調査」(越光直子)
6.26	大分県不妊治療費助成事業検討部会(大分) 参加(足立小、越名、院長)
6.27	第38回 日本遺伝カウンセリング学会(大阪) 参加(院長)
6.28	第3回 ウェイトサークル 参加者2名
6.29	30th Annual Meeting of ESHRE (Germany) 参加(山路、後藤香、事務長、院長)
6.29	職員旅行(鹿児島2班) 参加(油野、小池、城戸、坂本、篠田)
7.6	第64回 大分産科婦人科学会 第65回大分県産婦人科医会総会・学術講演会(大分) 参加(河邊、院長) 発表:「不妊治療中の異所性妊娠」(河邊史子)
7.8	院内全体研修: 接遇(担当: 受付)
7.12	第2回 大分性教育セミナー/第20回セント・ルカセミナー(コンパルホール) 講師: 池田稔先生(池田クリニック 院長) 「性的自律のために〜熊本県で行っている泌尿器科的視点の性教育〜」 座長: 宮川勇生先生(大分大学 名誉教授) 講師: 木原雅子先生(京都大学大学院医学研究科社会疫学分野 准教授) 「イマドキの子どもたちの心や性の課題 学校、家庭、地域の大人ができることは何か?〜WYSH教育の事例より〜」 座長: 貞永明美先生(貞永産婦人科 院長)
7.13	第2回 大分がん・生殖医療研究会公開講座/第20回セント・ルカセミナー(ホルトホール) 講師: 成田円先生(虎の門病院 血液内科移植コーディネーター) 「がん・生殖医療における長期サポート体制の構築 〜虎の門病院における同種移植後の妊孕性温存への長期サポート体制〜」 座長: 上尾裕昭先生(うえお乳腺外科 院長) 講師: 岡田弘先生(獨協医科大学越谷病院泌尿器科 主任教授) 「泌尿器科医の立場から見た男子生殖能温存の最前線」 座長: 吉村恭典先生(日本産科婦人科学会 前理事長、第2次安倍内閣 内閣官房参与) 講師: 大野真司先生(国立病院機構 九州がんセンター臨床研究センター 乳腺科部長) 「妊孕性から考える乳がん治療」 座長: 上尾裕昭先生(うえお乳腺外科 院長) 講師: 鈴木直先生(聖マリアンナ医科大学産科婦人科 教授、日本がん・生殖医療研究会 代表) 「がんと生殖に関わる諸問題に関してーがん・生殖医療の実践を目指して」 座長: 吉村恭典先生(日本産科婦人科学会 前理事長、第2次安倍内閣 内閣官房参与) 総括: 吉村恭典先生(日本産科婦人科学会 前理事長、第2次安倍内閣 内閣官房参与)
7.15	第184回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
7.15	第11回 大分県母性衛生学会実行委員会(大分) 参加(後藤裕)
7.16	DIS わぁど in おおいた別府 IT ビジネスセミナー(別府) 参加(安部)
7.17	DIS わぁど in おおいた別府 IT ビジネスセミナー(別府) 参加(山路)
7.17	大分県不妊治療費助成事業検討部会(大分) 参加(足立小、越名、院長)
7.19	第80回 新患教室 参加者79名 参加(越名、後藤香、下原、下馬場、戸高、坂本、川村、斉高、足立直、篠田)
7.19	第4回 ウェイトサークル 参加者2名
7.21	「生殖医療に関する遺伝カウンセリング相談受入れ可能な臨床遺伝専門医」講習会(東京) 参加(院長)
7.25	厚生労働科学研究班平成26年度第1回研究班会議(東京) 参加(工藤、院長)
7.25	日本産科婦人科学会 第3回 PGSに関する小委員会(東京) 参加(院長)
7.26	第205回 体外受精教室 参加者51名 参加(足立小、熊迫、下原、下馬場、松土、二宮、岡田、関、稗田)
7.26	第57回 ガーネットサークル OG1名、参加者8名

7.29	安全管理研修：医療安全管理(担当：研究室・培養室)
7.30	日本受精着床学会 平成26年度 第2回常務理事会(東京) 参加<院長>
7.31	<p>第32回 日本受精着床学会総会・学術講演会(東京) 参加<佐藤、後藤香、熊迫、大津、二宮、関、篠田、後藤裕、稗田、院長> 座長：世界体外受精会議記念賞「臨床」(院長) 一般口演「タイムラプス①」(熊迫陽子) 一般口演「カウンセリング・看護②」(後藤裕子) 発表：「精子のメチル化異常と流産組織のメチル化異常の関係」(佐藤晶子) 「タイムラプス(Primo Vision)観察と胚呼吸量測定を用いた初期胚品質評価の可能性」(後藤香里) (世界体外受精会議記念賞受賞) 「分割期胚における多核胚発生原因の分析」(大津英子) 「体外受精治療中の患者を対象とした性生活と日常生活についての意識調査」(二宮睦) 「当院治療中患者の特定不妊治療助成金制度に対する意識調査」(関こずえ) 「治療を諦めた患者への聞き取り調査」(篠田多加子)</p>
7.31	日本受精着床学会理事会(東京) 参加<院長>
8. 1	第48回 JISART 拡大理事会(東京) 参加<院長>
8. 1	日本受精着床学会評議員会(東京) 参加<院長>
8. 2	13th Kyusyu Breast Cancer Workshop(福岡) 参加<院長> Panel Discussion 講演：「未婚女性患者における卵子凍結の現状」(院長)
8. 2	第8回 第9期オリーブの会 参加者3名
8. 5	第185回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
8.13	徳島大学さねこ連にて阿波踊り(徳島) 参加<小池、大津、坂本、越光、事務長、院長>
8.16	第206回 体外受精教室 参加者36名 参加<油野、藤沢、足立小、佐藤、下原、下馬場、松土、二宮、岡田、関、稗田>
8.16	産婦人科診療ガイドライン2014講習会 婦人科外来編(大分) 参加<院長> 講師：「4. ホルモン・不妊症関連」(院長)
8.18	PGSに関する小委員会ワーキンググループ(東京) 参加<院長>
8.23	第58回 『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者84名 講師<越名(受付)、後藤裕(看護師長)、稗田(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 院長 緒方俊一先生> 参加<工藤、藤沢、小池、下馬場、戸高、川村、足立直>
8.24	第21回 臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加<佐藤、城戸>
8.24	医学専門家会議 FE999049の第Ⅱ相臨床試験プロトコール検討会(東京) 参加<院長>
8.25	SRL 研修(東京) 参加<城戸>
8.26	院内全体研修：心肺蘇生法(担当：看護部)
8.29	第221回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<河邊>
8.30	第5回 ウェイトサークル 参加者4名
9. 3	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』冬号(Vol.24)取材
9. 3	第14回 別府遺伝医学セミナー(別府) 参加<下川、佐藤>
9. 6	第207回 体外受精教室 参加者55名 参加<藤沢、越名、佐藤、二宮、岡田、関>
9. 7	第3回 「熊本生殖医療フロンティア」(熊本) 参加<城戸、大津>
9. 8	日本産科婦人科学会 第4回 PGSに関する小委員会(東京) 参加<院長>
9. 9	第186回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
9. 9	おおいた乳がん生殖医療ネットワーク 第1回目会合

行事一覧

9.11	第54回 日本産科婦人科内視鏡学会(鹿児島) 参加<岡田、越光、院長> 座長：一般口演「腹腔鏡一般⑬」(院長) 発表：「3Dカメラ、モニターを導入した Laparoscopic myomectomy (LM)」(院長)
9.11	日本産科婦人科内視鏡学会 第20回学術研修会(鹿児島) 参加<院長>
9.13	第9回 技術認定審査コンセンサスマーケティング(鹿児島) 参加<院長>
9.13	第21回 出生前診断研究会幹事会(宮崎) 参加<院長>
9.13	第21回 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(宮崎) 参加<佐藤、城戸、岡田、越光、院長>
9.13	第17回 日本 IVF 学会学術集会(大阪) 参加<下川、小池>
9.14	第12回 日本生殖看護学会学術集会(大阪) 参加<小池、手島>
9.16	院内全体研修：避難訓練(担当：看護部)
9.17	大分合同新聞記者 取材の為に来院
9.20	第81回 新患教室 参加者81名 参加<藤沢、足立小、城戸、戸高、坂本、川村、篠田>
9.20	第6回 ウェイトサークル 参加者3名
9.26	大分産婦人科 JOY 会(大分) 参加<河邊>
9.27	第10回 ご夫婦二人だけの生活を選ばれた元患者さんを囲む会 参加者11名
9.30	院内全体研修：食物アレルギーについて(担当：厨房)
10. 4	第208回 体外受精教室 参加者62名 参加<藤沢、足立小、後藤香、二宮、岡田、関、稗田>
10. 5	日本卵子学会 第6回生殖補助医療胚培養士セミナー(東京) 参加<下川、小池>
10. 5	平成26年度 第1回大分県医師会 JMAT 研修会(大分) 参加<河邊>
10. 6	大分放送(OBS)より取材の為に来院
10. 7	第187回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
10.11	日本卵子学会平成26年度第3回理事会(東京) 参加<院長>
10.14	院内感染研修：冬の感染症－インフルエンザ&ノロウイルス(担当：看護部)
10.15	PGSに関する小委員会ワーキンググループ(東京) 参加<院長>
10.17	第5回 大分産科婦人科内視鏡研究会(大分) 参加<河邊>
10.18	2014 Annual Meeting of the American Society for Reproductive Medicine (Hawaii) 参加<佐藤、後藤裕、事務長、院長> 発表：「Relation Of Sperm Methylation Abnormality To Miscarriage Villus Methylation Abnormality」(佐藤晶子)
10.18	第7回 ウェイトサークル 参加者3名
10.19	第11回 大分県母性衛生学会(大分) 参加<戸高、坂本、手島、北田、亀井、足立直、二宮、斉高、赤嶺、岡田、関、篠田、越光、稗田、河邊> 発表：「当院治療中患者の特定不妊治療助成金制度に対する意識調査」(関こずえ)
10.19	第32回 おぎゃー献金推進月間記念講演会(大分) 参加<河邊>
10.21	第222回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<河邊>
10.25	第82回 新患教室 参加者62名 参加<越名、大津、戸高、川村、斉高、稗田>
10.25	第58回 ガーネットサークル OG1名、参加者2名
10.25	第9回 第9期オリーブの会 参加者3名
10.27	卵管鏡導入
10.28	第115回 大分県周産期研究会(大分) 参加<山路、安部、油野、藤沢、青木、越名、下川、小池、城戸、後藤香、熊迫、戸高、坂本、手島、北田、川村、亀井、足立直、松元、二宮、斉高、赤嶺、関、篠田、越光、後藤裕、稗田、院長> 発表：「抗がん剤(シクロフォスファミド;CPA)投与によるマウス妊娠能への影響」(小池恵) 「がん治療前の卵子凍結に向けた大分での取り組み」(熊迫陽子) 「当院治療中患者の特定不妊治療助成金制度に対する意識調査」(関こずえ)

11. 1	第209回 体外受精教室 参加者39名 参加〈足立小、熊迫、松土、二宮、岡田、関、稗田〉
11. 4	第21回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員：上野徳美先生（大分大学医学部医学科社会心理学 教授）、緒方俊一先生（おがた泌尿器科医院 院長）、後藤裕子（セント・ルカ産婦人科 看護師長）、近藤邦子先生（別府平和園 保育士）、野村陽一先生（日本福音ルーテル大分教会 牧師）（五十音順） オブザーバー：稗田真由美（セント・ルカ産婦人科 臨床心理士）、河邊史子（セント・ルカ産婦人科 医師）
11. 7	第17回 胎児遺伝子診断研究会（長崎） 参加〈城戸、大津、院長〉
11. 8	第40回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会（大分） 参加〈山路、安部、油野、藤沢、大城、青木、足立小、越名、下川、小池、佐藤、後藤香、熊迫、戸高、坂本、手島、川村、松元、二宮、斉高、赤嶺、関、越光、後藤裕、稗田、河邊、院長〉 「産婦人科医が認識すべき乳がんホルモン治療の問題点」 （金沢大学医療保健研究域医学系分子移植学（産科婦人科学）教授 藤原浩先生）
11.10	第5回 PGSに関する小委員会（東京） 参加〈院長〉
11.11	第188回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
11.11	おおいた乳がん生殖医療ネットワーク 第2回目会合
11.15	第83回 新患教室 参加者51名 参加〈油野、越名、長木、戸高、坂本、越光、稗田〉
11.15	第8回 ウェイトサークル 参加者2名
11.17	釘宮馨大分市長を囲んでの竜馬会（大分） 参加〈院長〉
11.18	マネジメントレビュー
11.20	第59回 日本人類遺伝学会／第21回 日本遺伝子診療学会合同大会（東京） 参加〈下川、城戸、院長〉
11.20	第45回 大分市医師会医学会（大分） 参加〈大城、足立小、越名、熊迫、長木、大津、戸高、坂本、北田、川村、亀井、松元、二宮、斉高、赤嶺、関、越光、後藤裕、河邊〉 発表：「がん治療前の卵子凍結に向けた大分での取り組み」（熊迫陽子） 「体外受精治療中の患者を対象とした性生活と日常生活についての意識調査」（二宮睦）
11.22	第114回 九州医師会医学会（大分） 参加〈河邊、院長〉
11.25	第223回 大分市医師会産婦人科臨床検討会（大分） 参加〈河邊、院長〉
11.29	第49回 JISART 理事会（神戸） 参加〈院長〉
11.30	「がん・生殖医療導入に向けた精神的サポート体制構築を検討する」シンポジウム（東京） 参加〈小池、熊迫、篠田、越光、院長〉
11.30	第5回 JISART 事務教育委員会（大阪） 参加〈越名〉
12. 4	第59回 日本生殖医学会総会・学術講演会（東京） 参加〈下川、佐藤、後藤香、大津、二宮、関、篠田、後藤裕、河邊、院長〉 発表：「生殖補助医療（ART）後得られた流産組織のメチル化異常および精子のメチル化異常の関係」 （佐藤晶子） 「初期胚での品質評価のためのタイムラプス（Primo Vision）指標と胚呼吸量測定の可能性」 （後藤香里） 「分割期胚における多核胚発生原因の分析」（大津英子） 「体外受精治療中の患者を対象とした性生活と日常生活についての意識調査」（二宮睦） 「当院治療中患者の特定不妊治療助成金制度に対する意識調査」（関こすえ） 「治療を諦めた患者への聞き取り調査」（篠田多加子） 「子宮内膜症卵巣嚢胞エタノール固定術後の卵巣予備能の変化と腹腔内癒着の有無」（河邊史子）
12. 5	日本専門医機構発足にもとづく専門医制度の改定説明会（大分） 参加〈院長〉
12. 6	第59回 『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座（大分・トキハ会館） 参加者51名 講師〈越名（受付）、後藤裕（看護師長）、稗田（臨床心理士）、院長、おがた泌尿器科医院 院長 緒方俊一先生〉 参加〈安部、藤沢、小池、戸高、川村、足立直〉
12. 8	新職員 麻生英里（看護部）

行事一覧

12. 9	第189回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
12.12	日本遺伝子診療学会：遺伝子診断・検査技術推進フォーラム公開シンポジウム2014 「個別化医療を進めるために」(東京) 参加〈院長〉
12.12	第29回 日本生殖免疫学会総会・学術集会(東京) 参加〈後藤香〉
12.13	第9回 ウェイトサークル 参加者3名
12.13	忘年会
12.14	日本卵子学会 JMOR 編集委員会(東京) 参加〈大津〉
12.15	新職員 青木桜(受付)
12.16	院内感染研修：インフルエンザについて知識と予防(担当：看護部)
12.17	「ヘルシースタートおおいた」推進のための産科連絡会議(大分) 参加〈後藤裕〉
12.20	第210回 体外受精教室 参加者59名 参加〈青木桜、越名、大津、松土、二宮、岡田、関〉
12.23	日本生殖医学会2014年度 第3回 生殖医療従事者講習会(東京) 参加〈河邊〉
12.24	クリスマス会
12.26	院内全体研修：胚の発育に関して(担当：研究室・培養室)

著書(共著)一覧

- 「【生殖医療と倫理・法】配偶子提供と出自を知る権利」(院長)
『臨床婦人科産科』第68巻第1号(医学書院)
- 「生殖医療と社会ー生まれてくる子どものためにー」(院長)
『セミナー医療と社会』第41号(セミナー医療と社会)
- 「V.ART の実際 10. 胚のグレーディングと移植胚の選択」(院長)
『産婦人科の実際』第63巻2014年臨時増刊号(金原出版株式会社)
- 「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」(院長/長木美幸)
『産婦人科の実際』第63巻第7号(金原出版株式会社)

総説一覧

- 「安全を重視したクローズド法での胚凍結」(熊迫陽子) J. Mamm. Ova Res. 31(4) : 115-122,2014

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー

開催頻度：1回/1年

1993年から、セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、国内外から著名な先生方を講師にお招きし、当院多目的ホールにて開催、2014年は第20回目となる。

内容は、生殖補助医療の最新技術の講演や胚培養士の話、臨床心理士やピアカウンセラーによる心のお話等多岐に渡り、医師だけでなく、生殖補助医療に携わる全てのスタッフにとって興味深いプログラムになるよう工夫している。80名規模で、講師との距離が非常に近いので、質問もしやすく、質疑応答の時間や総合討論の時間など、毎回熱いディスカッションが行われる。休憩時間にも熱心に質問する姿があちこちで見られ、非常に有意義なセミナーである。

セミナー開催にあたっては、企画・立案・運営までを全て当院スタッフで行っている。

大分がん・生殖医療研究会

開催頻度：1回/1年

がん患者さんのがん治療前の配偶子保存、受精卵保存のため、患者さんへの情報提供、医療機関の連携のためのセミナー等を行っている。

また、2014年9月には、大分県内の乳がん治療施設と生殖医療施設のネットワーク「おおいた乳がん生殖医療ネットワーク」を設立した。

大分性教育セミナー

開催頻度：1回/1年

不妊症患者の初診時の年齢の上昇に伴い、不妊知識調査を行ったところ、患者が「性」に対し、「避妊」について学ぶ機会はあっても、「不妊」や「生殖年齢」についてなど、大切な情報が不足していることが分かった。また、昨今の若者を取り巻く社会環境の変化に伴い、「性」に関する社会の状況、個々の考え方や概念など間違った性知識や危うい性行動などが広がっている。そこで、2013年より、当院の活動の一つとして、児童養護施設別府平和園の子どもたちに対する性教育に加え、大分県内の一般の方や教職員の方々に対しての性教育セミナーを開催している。

『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

2014年4回開催 参加のべ人数321名

受診中の患者さん以外にも広く不妊治療を知ってもらう目的で、3ヵ月に1回(年4回)外部の会場で、参加者の方がリラックスして聞いていただけるように、コーヒーとケーキを用意し開催している。

院長が詳しく説明した後、泌尿器科(協力病院)の医師による男性不妊の治療についてのお話、臨床心理士による心のお話、看護師による診療やサポート体制、受付スタッフによる助成金等のお話を行っている。また、OG(当院で治療後赤ちゃんを授かり出産した方)のお話もあり、OG自身の治療歴や、治療中の悩みやストレスに対する対処の仕方など、患者さんの立場からお話をいただけるため、毎回好評である。

新患教室

2014年7回開催 参加のべ人数494名

当院の多目的ホールにて、初診時の検査から体外受精までの一連の流れを、院長が2～3時間にわたって詳しく説明した後、看護師から診療やサポート体制についての説明を行っている。また、培養室、受付、臨床心理士からのお話も行っている。早い時期に夫婦で参加するため、夫婦二人で取り組む意識が強くなり、その後の治療に対する理解にも役立っている。

体外受精教室

2014年12回開催 参加のべ人数690名

初めて体外受精を受ける患者さん向けに、治療の過程やスケジュール、体外受精前後の体の変化など、院長が3～4時間にわたってわかりやすく説明している。その後、看護師、培養室、受付、臨床心理士から説明を行っている。

「受精は神秘的なもので、それに関わる体外受精はとても繊細な技術で病院側の誠意と努力をととても強く感じました」「不安に思っていたことが軽減され、不安なく体外受精に進むことができそうです」「最後の先生の夫婦仲良しが原点という言葉には胸をうたれました」など、患者さんからの率直な感想も聞かれる。

教室はご夫婦での参加としているため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考えることができ、その後の治療のステップアップにも役立っている。

新患オリエンテーション

初診時診察終了後に、不妊治療に対する教育を受けた看護師が、写真や図を使い、1時間程度時間をかけ、患者さんへの病状説明や、今後の治療の進み方などの説明・相談を行っている。患者さんの質問や不安に対して個別に対応も行っている。

心理専門相談室

在室日：月曜日～土曜日（予約制および随時受付）

臨床心理士が治療中の気分の落ち込み、夫婦関係、日常生活のストレス、また今後の治療への迷いなどのカウンセリングを行っている。今直面している悩み、不安を受け止め、一緒に考え、少しでも安心して治療が受けられるようなサポートを心がけている。

2014年より初診時の面談を導入し、初診時にお会いすることで不安の軽減や改めての来室にも繋がっている。

ガーネットサークル

2014年4回開催 参加のべ人数22名

当院で治療後、出産へと至った方において、現在治療中の患者さんとの交流の場を設けている。その都度テーマを変え、対象を絞り、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるように心がけている。

参加者より、「治療に前向きになれた」との声も聞かれ、経験者の話を聞くことにより、患者さんの不安を取り除き、悩んでいるのは自分ひとりではないと再認識できる貴重な会となっている。

オリーブの会(第1～9期)

2014年7回開催(第9期) 参加のべ人数28名

40歳以上の患者さんの孤独感や不安を軽減させるため、また治療終結への思いを共有できる時間と場を提供することを目的として開催している。

同じ年代の同じメンバーに、臨床心理士と看護師を交え、治療のことや日頃感じていることなど、お茶を飲みながら、リラックスした自由な話し合いの場となっている。

ご夫婦二人だけの生活を選ばれた

元患者さんを囲む会

2014年1回開催 参加人数11名

不妊治療の終結を決断し、ご夫婦だけの生活を選択された方に、現在治療中の患者さんに対して、治療当時の思いや、治療終結に至るまでの決断の経緯、現在の心境などのお話をしていただいている。

ご夫婦で参加される方もおり、質問や意見交換も活発に行われる。治療中の患者さんにとって今後の治療や、これからの二人の生活を考えることができる貴重な時間となっている。

ウェイトサークル

2014年9回開催 参加のべ人数26名

肥満はホルモンバランスに影響を及ぼしたり、妊娠後や出産時にもリスクを伴う恐れがあると言われていたため、BMI24以上の方を対象に、体重指導を行っている。

院長相談

月・水・金曜日の夕方診療時(予約制)

治療内容・治療計画・治療終結に向けての相談など、治療をする上で迷ったり、悩んだ時、普段の診療では聞きにくいことを、他の患者さんを気にすることなくゆっくと相談することができる。

なんでも相談

看護部

不妊治療を行う上での不安・ストレスや悩み、治療についての質問、体外受精などのステップアップに関するアドバイスなど、多岐にわたる相談を受ける場を設けている。(予約制)

オリエンテーションルームで個別に相談ができるため、他者に話を聞かれる心配をせず、ゆっくと相談することができる。

なんでも相談

培養室(胚培養士資格保持者による相談)

月曜日～土曜日の11:00～12:00(予約制)

体外受精における不安や疑問等の相談を随時受け付けている。

その他

外来相談係(看護部)

医師の診察時に聞けなかった質問や、細かな訴えなどを傾聴し、説明・相談を行っている。また患者さんの電話での問い合わせにも対応している。

手術前説明(看護部)

手術を予定している方に、手術前の問診・各種検査(胸写・心電図・肺機能検査・血液検査)を行い、パスを用いて入院から退院までのスケジュールの説明を行う。

手術前説明(院長)

月・水・金曜日の夕方診療時(予約制)

手術予定の1週間前までにご夫婦でご来院いただき、麻酔方法・手術内容について説明を行う。

手術後説明(院長)

月・水・金曜日の夕方診療時(予約制)

手術時の映像(動画)を見ながらご夫婦に、結果説明・今後の治療方針・治療計画の説明を行う。

ART オリエンテーション(看護部)

体外受精に初めて入る患者さんに、看護師が個別に治療内容やスケジュールを説明する。

ART オリエンテーション(培養室)

(胚培養士資格保持者による相談)

体外受精初回時に体外受精の方法、流れについて説明を行う。

腹腔鏡検査での未熟卵子体外成熟培養体外受精胚移植について説明を行う。

ART に関する説明(培養室)

(胚培養士資格保持者による相談)

体外受精胚移植または融解胚移植前に、説明を行う。

全胚凍結した場合、凍結した胚の説明を行う。

体外受精後、移植または全胚凍結ができなかった場合に説明を行う。

ART 結果説明(看護部)

院長より ART の結果についての説明のあと、今後の治療の流れについての説明を行う。

全体朝ミーティング

毎朝、診療開始前に外来にて、職員全員で朝ミーティングを行っている。受付より当日の診察内容毎の予約患者数、研究室・培養室より当日の採卵・胚移植・精液検査の予定、心理専門相談室より当日の相談の予定、看護部より当日の手術予定について報告している。職員全員が参加し、情報を共有することにより、全員が一日の診療の流れを把握することに役立ち、士気を高めることに繋がっている。

院内研修・ミーティング

毎週火曜日の午後、職員全員が参加して行っている。研究室・培養室より、研究結果の報告、海外論文詳読、各部署より「ヒヤリ・ハット」を報告し、今後のために協議している。また、その週に治療を受ける患者さんについて治療方針を話し合うなど、4時間程のミーティングを行っている。このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、全員が発言する機会を作っている。

培養室朝ミーティング

毎朝培養室にて、院長を交え、当日の採卵予定患者の検査結果、胚移植予定者、培養中の胚の観察結果報告、当日の業務の流れの確認を行っている。

培養室ミーティング

1 ヶ月に2回、培養室の職員全員で、日常業務の問題点や改善点、各々研究テーマについての話し合い、学会参加報告、基礎知識に関する勉強会を行っている。

スタッフ配置

院 長	宇津宮隆史
医 局	河邊史子、甲斐由布子
研究室・培養室	**大津英子、*長木美幸、*熊迫陽子、*後藤香里、 *†城戸京子、*佐藤晶子、*†小池 恵、下川侑樹乃、後藤厚子
看 護 部	†後藤裕子、越光直子、†篠田多加子、†関こずえ、岡田清美、 松元恵利子、足立直美、松土留美、川村智恵、赤嶺佳枝、 齊高美穂、亀井里砂、北田奈津枝、†手島しおり、坂本順子、 戸高里美、浦川奈津美
心理専門相談室	稗田真由美（臨床心理士）
総 務 部	宇津宮富美子
受 付	越名久美、足立小百合、大城麻依、藤沢奈津美、青木 桜
情報処理室	安部里美、山路美和
厨 房	矢野千恵美、油野亜由美

**：日本卵子学会および日本生殖医学会認定生殖補助医療管理胚培養士
*：日本卵子学会認定生殖補助医療胚培養士
†：日本生殖心理学会認定生殖医療相談士

病院概要

名 称	医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所		
開設年月日	1992年6月3日		
住 所	〒870-0823 大分市東大道1丁目4番5号 TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.st-luke.jp/		
許可病床数	13床		
心理専門相談	総数40名		
	常勤医	2名	臨床心理士 1名
	非常勤医	1名	総務部 1名
	研究室・培養室	5名	受付 5名
	検査室・培養室	4名	情報処理室 2名
	看護師	10名	調理士 1名
	准看護師	7名	栄養士 1名
診療時間 (受付予約制)	月・水・金	8:30～11:30 13:30～15:30 17:00～18:30	
	火・土	8:30～11:30 (祝日を除く)	

〈本年報の集計も SarahBase を用いました〉

StLuke 2014年 年報

2015年6月 発行

発 行：医療法人セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

編 集：宇津宮 隆史
〒870-0823 大分市東大道1丁目4番5号
TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.st-luke.jp/>

